

会議要旨

| | |
|----------------|--|
| 会議の名称 | 世田谷区インクルーシブ教育ガイドライン作成委員会（第5回） |
| 開催日時 | 令和6年1月23日（火曜日）午後1時30分から午後3時15分まで |
| 場 所 | 世田谷区役所 第1庁舎 庁議室 |
| 出席者 | 東京家政大学教授、東京都立光明学園校長、世田谷区立小学校長会代表、世田谷区立小学校特別支援コーディネーター、世田谷区立幼稚園長、世田谷区立教育総合センター長、学校経営・教育支援担当副参事、支援教育課長、乳幼児教育・保育支援教育課長、障害施策推進課長、教育指導課統括指導主事、教育指導課指導主事、支援教育課係員 |
| 出席者 (オンライン) | 東京学芸大学附属小金井小学校教諭、世田谷区立中学校長会代表、世田谷区立中学校特別支援コーディネーター |
| 欠席者 | 東京都立久我山青光学園校長、支援教育課指導主事、支援教育課副係長 |

会議概要・質疑事項・回答内容

1 区立幼稚園におけるインクルーシブ教育の取組について

世田谷区立幼稚園（7園）、幼稚園型認定こども園（1園）における配慮を必要とする子どもを中心とした幼稚園教育の現状についての説明。

2 ガイドラインの構成案についての意見交換

○ 基本理念

- ・ 基本理念の主体が明確でない。区が主体であることが分かるようにした方が良い。
- ・ 「一緒にいることで学び合う」について、放課後、別室、オンラインなどで繋がっている不登校の子どもたちもいることから、「つながり」「絆」といった表現にして、不登校のガイドラインと整合性をとった方が良い。
- ・ 「自らの学び方を選ぶ」について、施策の1つとして、一律の評価ではない成績評価の導入もある。
- ・ ユニバーサルデザインは環境面では広まってきているが、本質的な「学び方」のユニバーサルデザインとして、自分のやりたいやり方とか、自分の発表したいやり方で学習すること、自由進度学習なども含まれるのではないか。

○ 目標

- ・ 「すべての子どもが地域共生社会の中でともに学び共に育つことを通して幸せな未来を思い描き、自分らしく生きることができる」について、「生きることができる」とすると、子どもに強いている印象がある。「生きる」までに留めるか、他の表現が良い。

○ 基本方針

- ・ 基本方針の説明は簡潔な表現が望ましい。

- ・ 「子ども（保護者）の意思を出発とする」について、支援が必要なすべての子どもに個別の学校生活支援シートを作成し、活用するとともに、数か月後に意思の確認と成果を共有する場を作るといった具体的な施策があると、この基本方針に具体性が出てくると思われる。
- ・ 配慮や支援が必要な子どもに対して、周りの子どもがポジティブな雰囲気を受け止められる価値観の共有ができるように、社会モデルの理解を進めたうえで障害に対する理解を進めていかななくてはならない。障害福祉部としても協力を検討したい。
- ・ 社会モデルは考え方であって、それをどう行動に移すかが大切である。
- ・ 保護者や本人たちへのいわゆる相談機能の充実を盛り込んだ方が良い。

○ その他

- ・ 幼稚園のことが分かるように、学校に含む形とせずに「園・学校」と記載した方が良い。
- ・ 世田谷区の独自性を出していく上で、学校の実情を踏まえた人権教育やこれまでと異なる障害理解教育の実施が必要ではないか。

5 事務連絡

- ・ 次回は5月の予定。変更等があれば、事務局より委員へ連絡する
- ・ 3月に異動があった場合は、事務局へ報告をお願いします。

事務局

教育指導課・支援教育課